

勸善懲惡錦画図解 官訥

第三十號

投書

編輯時習舎

紫白なる行ひ八聞てもさきよりの大坂天満辺の
 一商人の手代より取ふけし不何方か五円札を
 受取て歸り支配人に差出まは是ハ贋札と
 いふと大きき騒動さ不調法をつくの八んとて
 其贋札を高麗橋下目岡田清藏
 へ印紙を買は持行り折ぐ
 岡田の主人留まて婦人の事や
 何心も贋札を受取りし
 カ手代ハま皮色よりと悦びて
 家又歸りて明輩は斯々
 告るを主人洩れ聞て大い
 怒り贋札と取りまは是を
 用ふる八人をいさるぎ
 左様の不人情多事をす
 以の外の事之速に岡田氏に説て取戻し来はと
 言付る手代より理伏し岡田行り又岡田も主人
 歸りて留主中小受取る金札の贋なるを見て様物
 人手の難裁の出来もの
 とて速に別き捨り折るカ手代亦
 主人の口上を迷厚く詫びて正札五円を出せ
 岡田氏は是を受て贋札を受取るは我方の
 誤之既如斯引きまは替金不及といふ
 手代感伏し家小歸り主人小くと告る小主人
 早速岡田来り手代の誤りを謝して替金を出せとも
 岡田氏いさふまは手代小押合終不双方半分の損と定り
 岡田氏金二月半多き返し我實心平の心づゝ感心なあり



禹圖
 びん
 図

出版所 本町四丁目 藤井時習舎